

新研究所の発足に当たって

一般財団法人大日本蚕糸会

会頭 小林芳雄

4月1日をもって新たに「蚕糸科学技術研究所」が発足いたしました。これまでの蚕糸科学研究所と蚕業技術研究所を統合し、養蚕から製糸までを一貫した研究対象とする総合的な研究機関を目指すものです。一昨年来、茨城県阿見町での研究棟の新築・改築などを進め、この度開所に至りました。この間、様々のご協力を頂いた関係の皆様には厚く御礼を申し上げます。

従来、阿見町に置かれた蚕業技術研究所では蚕品種の開発、養蚕技術の改良などを、東京都新宿区に置かれた蚕糸科学研究所では製糸技術の開発や絹加工技術の研究などをそれぞれ担ってきました。新研究所ではこれらの研究開発を一か所で総合的に取り組むこととなります。昨今の蚕糸・絹をめぐる課題の一つとして、絹製品に対する市場のニーズと蚕・生糸の持つ機能・特徴をいかに結び付けていけるかがポイントといわれております。研究現場においても、養蚕から製糸、加工・利用までの繋がりという意識を持って、こうした課題に応えていければと考えています。

これからは、養蚕、製糸技術の維持・継承や普及のために後継者・技術者を育成することも重要な課題です。新研究所は、蚕品種、桑栽培・養蚕、製糸・加工などに関する研究成果や技術動向を一か所で提示できる全国でも稀な施設になります。地方自治体や関係団体とも連携をとりながら、研修の場の提供などにより研究所の機能を有効に活用していくことを予定しています。

国内の養蚕・製糸業の縮小や和装需要の減少が引き続く一方で、シルクの機能に対し新分野を含めた関心の高まりがみられ、遺伝子組み換えによる新たな機能を付与した生糸の生産開始などの動きがあります。大日本蚕糸会では、幅広い関係者が参画する「全国シルクビジネス協議会」を通じて、機能性を持つシルクの商品化、需要開拓などに取り組んでいます。また、シルクの大生産国である中国など諸外国との間で、蚕糸絹業界の動向の把握や交流などを進めていくことにしています。こうした活動に当たっても、新研究所の施設や研究成果などが大きな役割を担えるものと期待をしています。

緑豊かな阿見町に発足した新研究所へのご来訪をお待ちしております。